

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900184
法人名	有限会社めぐみ福祉会
事業所名	大口めぐみの里
所在地	鹿児島県伊佐市大口曾木480 (電話)0995-25-2323
自己評価作成日	平成22年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4670900184&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成23年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 家庭的な環境と地域との交流のもとで自由なやすらぎと憩いの場を提供します。
2. 個人の尊厳を失うことなく自立を手助けします。
3. 満足と生きがいを持っていただけるよう努めます。
4. 職員一人ひとりが認知症ケアについて日々学びの姿勢を忘れず研修にも積極的に参加し、ケアに生かしている。
5. 事業所の理念は、毎日職員が朝礼で唱和し理念に基づいた介護に取り組んでいます。
6. 利用者の居室や共同の場所の掃除は行き届いており、環境も整備されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中に建ち、ホームの周辺には季節の花々が植えてあり、利用者が和める環境が整っている。建物は落ち着いた雰囲気、日中は利用者が過ごしやすく、職員と共に会話や歌を楽しむなど、支えあいながらも楽しくすごすことができ、利用者が楽しめる行事も多く、利用者・職員も明るく話しやすい雰囲気である。

【優れている点・工夫点】

1. 職員を育成する取り組み

外部の研修への参加には勤務体制を考慮したり、ホーム内で定期的に研修が行われている。資格取得に向け、職員同士が助け合いながら資格取得や質の向上に向けての取り組みが行われている。

2. 外部評価の利用

職員全員で自己評価に取り組むとともに、運営推進会議や職員ミーティングで話し合い改善に向けて努力している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を作り、毎日の朝礼で唱和し、それに基づき一日の目標を定め評価し、実践に取り組んでいる。	理念には「地域・家族とともに支えあう」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。理念を掲示するとともに、毎日の朝礼において唱和し、具体的に話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所も自治会に加入しており防災訓練や行事等にも参加して頂いたり、地域の清掃活動にも参加している。又、普段から散歩等で挨拶を交わしたり野菜の差し入れを頂いたり交流がある。	自治会に入会し、清掃活動や行事、回覧板に参加し、公園等へ散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。学校等との交流会やボランティアの受け入れを行い、日常的に交流が行われている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	人材育成への貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。職員は研修を受けキャラバンメイトとして地域の方々に認知症についての理解を深めてもらうよう活動を行っている。随時認知症や介護についての相談も受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催し事業所からの報告を行い、それに対し様々な意見を頂いている。事業所は頂いたアドバイスを基に良い方向へ行くよう努力している。	隔月に1回開催され、事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や行事等に参加して頂いたり、事業所からの相談等に対応して頂いたりしている。又、市町村からの依頼を受けキャラバンメイトの活動に協力をしている。	頻繁に市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きや定期的な広報誌の配布やその他の機会に訪問し問題や事故や認定手続きなどの情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員で身体拘束についての勉強会を行いケアに取り組んでいる。又、家族の方へも拘束についての害等話し必要に応じて報告を行っている。職員は利用者の行動を良く見て外に出るとき付き添い等して出来るだけ鍵をかけない生活が出来るよう努めている。	玄関に身体拘束排除宣言を掲げるとともにマニュアルを作成し勉強会を行い、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。	
7	0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修等を行い虐待は身体・心身共に有ることを理解しケアに努めている。又、疑問を感じたことがあれば話し合いを行い認識を共有する様になっている。		
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は成年後見人制度の研修を受け必要と思われる利用者がいれば対応している。又、職員は勉強会に参加し、理解を深めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	0	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	相談や見学に来られた際、丁寧に説明を行い利用料金・リスク・看取りについての対応や医療機関との連携についても説明し、同意を得ている。契約解除の場合も十分に話し合いを行い納得頂いている。利用金の変更がある時は家族と個別に話し合い決定している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の訪問時や家族会で常に話し合い何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。意見箱を設置しており、出された意見は代表者へ報告しミーティング等で話し合い対応している。	第三者委員を任命するとともに重要事項説明書に相談窓口を記載し、家族会も定期的に開くなど家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が苦情などを把握した時には介護記録で他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング等に参加したり日常的にコミュニケーションを取り要望や意見を聞いてもらっているが、話し難い事もあるので全部の把握はされていないとおもわれる。	朝礼、勉強会、ミーティング時に勤務体制などの話し合いをもったり、業務改善に向け、気軽に声をかけやすい雰囲気づくりに心がけている。また悩みがありそうな職員には個別面談を行い問題解決を図っている。	
12	0	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に対し支援がなされている。職員同士の人間関係は把握され配慮がなされていて代表者も常に利用者・職員とコミュニケーションを取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	0	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修へは多くの職員が参加できるようにしており、研修報告書を提出している。又、内部研修としてミーティング等で発表し、皆で情報を共有できるようにしている。新人には担当の職員が技術対応の仕方について指導している。</p>		
14	0	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内にグループホームの連絡協議会がありその中で交流や事例検討等を通し他の施設の良い点を取り入れケアに活かすようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	0	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や思いを良く聴き不安が少しでも取れるようコミュニケーションを図り信頼関係を築けるようにしている。又、サービス利用の相談が有る時は本人に合せて心身状態の確認を行い職員が本人に受け入れられるように努めている。		
16	0	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを良く聴き、何を求めているのか理解し事業所としてできる事の説明を十分に行いながら信頼関係が築けるよう努めている。		
17	0	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思いを確認し、支援の提案・相談をくり返し信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにし、早急な対応が必要な方には出来る限り柔軟な対応をし、他の事業所とも連絡を取り合うようにしている。		
18	0	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者である利用者から昔の生活の様子を聞いたり励ましてもらうことが多くあり、職員も利用者の思いを聞きだすよう会話をしたり、作業等できる事は一緒にやり支えあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	0	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や状況の変化や職員の思いをこまめに伝えるようにし、面会時もゆっくり過ごせる環境作りを行っている。又、情報を共有し本人の支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っている美容院や病院を利用したり連絡を取って欲しい人がいれば家族にも協力して頂いたりして面会の呼びかけを行っている。	個人台帳や面会記録を活用し、利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるよう面会、電話、手紙の支援や、墓参りやなじみの店への買い物などの支援を行っている。	
21	0	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり全員で過ごす時間、仲の良い者同士で過ごせる場面を作り、職員は利用者同士の関係がうまくいくように調整役に努めている。		
22	0	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も相談を受けたり、行事等へ来て頂くよう声かけを行い継続的な関係を崩さないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、利用者との会話の中で思いや希望の把握に努め、本人が納得される説明を行なっている。又、家族や関係者から情報を得るようにし、言葉や表情などから情報を得ることが出来るよう心掛けている。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、個人台帳などに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有をはかっている。	
24	0	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ本人のこれまでの生活環境などの把握に努めている。又、家族にもこの重要性を十分に説明し理解につなげている。		
25	0	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活慣習や一日の生活リズムを職員全員で見極め、チェックし全体像をとらえる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 日々の様子やケアの気付きなど朝の申し送りやミーティングでその都度行い、計画の見直しに活かしている。又、個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体的状況、日々の暮らしの様子、言葉、エピソード等を記録している。	本人や家族の思いや意見を聞き、現状に合った介護計画を作成している。又、職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。	本人、家族も参加した担当者会議を開き話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合い、介護計画を作成することで、職員はすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っている。ただ、主治医の話し合いへの参加が書面では確認できなかった。	今後は主治医照会書等を利用し介護計画に主治医にも参加してもらう意向である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	0	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり状態の変化や気づきを記入し職員全員がいつでも見れるようにし情報を共有している。記録を基に介護計画の見直しに活用している。		
28	0	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。自主事業や認知症デイ・ショウトステイ等を行い、様々なサービスが行えるように強化してある。		
29	0	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会長・包括支援センターの参加があり、関係が強化され支援に関する情報交換、協力体制が築かれている。ボランティア等の要請を行い施設内の行事にも参加してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は希望に応じて以前からの掛かり付けの病院としてし、主治医と連携を取っている。通院は、その方の状況に応じ家族に依頼したり施設側で行ったり必要に応じて往診等の依頼や他の病院への受診も行えるようにしている。	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めてしている。治療受診時も適切な治療が受けられるように診療記録等で情報提供に努め、良い関係がつけられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	0	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援が行われている。職員は体調や表情の変化を見逃さないよう早期発見に努め速やかに看護師に報告し適切な医療に繋げられるようにしている。		
32	0	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを最小限にする為、医師・看護師・家族等と情報交換を行い乍ら可能な限り早期退院が出来るよう働きかけている。入院中、職員はこまめに面会に行き、声かけを行い様子を見るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に伴う意志の確認書を作成し、事業所に対応できるケアについての説明を行っている。本人・家族・医師・スタッフが連携を取り、意志確認を行い、取り組みを行っている。	重度化や看取りに対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。協力病院と24時間体制で連携がとれ本人・家族の安心感につながっている。また、過去に看取りの実績もある。	
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの作成がされており、職員全員で話し合いをしている。又、AEDを設置し勉強会をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治体・消防署の協力をいただき避難訓練・消火器の使い方や利用者の誘導等定期的に全員参加で行っている。又、非常警報通報装置を設置し、初期対応が出来るようにしてあり、自治体の無線機も使用させてもらうようにしてある。	避難訓練や消火訓練を行うとともに、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。地域住民に理解を呼び掛けた結果、協力して災害対策を行う体制を整えている。非常災害時の必要な備品の管理もされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考え傷つくような声かけをしないよう、朝礼やミーティングで話合っている。又、守秘義務について度々話合いを持ち全員が意識できるようにしている。	事業所のプライバシー保護方針を説明し、本人・家族より同意をもらっている。利用者への言葉かけは十分注意し自己決定しやすいよう配慮している。また、記録等は事務室の鍵のかかる棚に保管し外来者の目につかないように配慮している。	
37	0	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声かけ行い関わりを持つ中で表情を観察し、自己決定ができるような支援や場面づくりに努めている。		
38	0	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のその日の体調に合わせて対応している。本人の希望が出来そう出ない時は本人と話し合いを行っている。		
39	0	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の更衣など本人に意志決定してもらい出来ない人へは職員と一緒に考え本人の気持ちに添って支援している。又、馴染みの理・美容院を利用できるように連携を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが好き嫌い等には対応し、交換してもらえる様にしてある。職員も一緒に食べるなど楽しい雰囲気作りもしている。又、オシボリ配りや下膳、野菜の下ごしらえ等の手伝いを一緒に行うようにしている。	好きなものを家族から差し入れてもらったり、食事の希望を聞いたり食欲を引き出す工夫をしている。また旬の食材を利用し、下ごしらえ、配膳、下膳を一緒に行うことで食への興味を持ってもらうようにしている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	0	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の食事量・飲料水量の確認を行い体調に合わせ食事形態を変更したりし、職員同士で情報を交換・共有している。又、好きな食べ物を取り入れたりして喜んで食べられるよう支援をしている。		
42	0	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は義歯洗浄、うがいをしてもらい時には歯ブラシで舌を磨くなどし口腔ケアを行っている。食事前に口腔体操を取り入れ夜間は義歯の消毒を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の様子、時間を見ながら誘導して出来るだけ失敗がないよう支援している。又、オムツの方もポータブルトイレにて排便が出来るよう気をつけている。	時間単位の排泄チェック表を作成し、本人の生活リズムを確認しながら排泄の自立支援へ向け介護を行っている。	
44	0	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけ、食べ物を工夫したり、水分補給を行ったりしている。下剤使用中の方は医師と相談しながら調整し便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時の曜日・時間は決まっているがその日の体調・気分に合わせてるようにしている。仲の良い人とゆっくり入れるようにし楽しみの入浴となるよう支援している。	体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけのタイミングを考え、入浴剤やゆず湯などを利用し気持ちよく入浴を楽しめるよう工夫している。	
46	0	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて日中の活動が出来るよう心がけている。夜間眠れない時は会話をしたりして安心して休んで頂くようにしている。睡眠剤の使用は医師と相談している。		
47	0	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルが用意され職員はいつでも内容を把握できるようにしている。薬剤の変更時は必ず申し送りをして誤薬がないよう気をつけている。		
48	0	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の体調に合わせて出来そうな仕事は頼み、終わったら感謝の気持ちを伝えている。又、行事の準備や飾り付け等一緒に行い、楽しみを持って頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には出来ていないが、季節の花見・ブドウ狩り・紅葉狩り等車イスの方も出来るようにしている。又、一人ひとりの要望に応じてできるだけ外出やドライブができるよう支援している。	天気の良い日などには外気浴が行われている。また、本人の希望に応じて買い物、ドライブ、墓参りなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	0	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は事業所にて預かっているが、希望者は家族と相談し小額の現金を本人が持ち支払いが出来るよう支援している。		
51	0	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者が年賀状や暑中見舞いなどを家族へ出す為の支援や希望に応じて電話の利用が出来るようにしてある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり生活感のあるものを取り入れたりしている。又、不快な物音を立てないようし、悪臭等にも注意し気持ち良く過ごしてもらえるよう気をつけている。	住宅地の中に建つホームは生活感があり、落ち着いた雰囲気、共有空間には絵画や花が飾られ、リビングや廊下は思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がたどよい、居心地よい空間となっている。	
53	0	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールにはソファを置いてくつろげる居場所作りがしてありいつでも利用者がくつろげるように努め、好きな場所でゆっくり出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの物をいつでも持ち込めるようにして有り、一緒に環境整備に努めている。</p>	<p>家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて大型テレビ、仏壇、家具、椅子、テーブル、ぬいぐるみなど馴染みのあるものが持ち込まれ居心地のよい空間となっている。</p>	
55	0	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関・廊下やトイレなど手摺りを設置し、一人ひとりの状況に合わせてできるだけ自力で安全に行動が出来るよう環境整備に努めている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で生活している事を理念に掲げ常に理念に応じた介護の実践につなげ、毎日朝礼で読み上げ、その日のリーダーが目標を掲げ評価をしている。又、ミーティングでも話し合いを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩等に出かけて地域や近隣の方々と挨拶を交わしている。行事等にも自治会や小学生が参加し交流の機会も多い。自治会に加入し防災訓練等にも積極的に参加している。近隣の方々からの野菜等の差し入れも多い。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	管理者やスタッフは地域の研修や会合に関わり、特に認知症サポーターとして地域の方々への理解や接し方の講座を開催、人材育成の一環として実習生の受け入れ介護保険の相談、施設の見学等も行い地域の方々の意見やアドバイスの取り入れも行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月で開催し報告・質問・意見・要望等意思疎通の場として、又、サービス向上にも活かしている。メンバーも職員・家族会・自治会及び警察署・消防署からも参加頂き有意義な会となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者の利用状況や入院等の情報を市町村担当者に伝え、又実情を理解してもらえるよう密に連絡を取っており、更新調査時には暮しぶりを具体的に伝えている。研修場所としての活用や保健所等への連絡としても活用している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の身体的・心理的な情報を常に把握し不安や混乱の要因となるケアを除いて拘束しない状況作り、常に見守りを行い自由な雰囲気作り、外出しそうな様子をみたらさりげなく話かけ一緒に散歩するなど拘束しないケアに取り組んでいる。止む得ない場合については家族の了解を得ている。又、身体的拘束について職員の勉強会も随時行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング時には身体的虐待だけでなく、心理的虐待についても皆で学び言動や行動に細心の注意を払い又、職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響しないようにしている。昼間・夜間の水分補給もしっかり行い対応・気配りもされている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要性を要している利用者に対して漠然と話すことはあっても深く権利擁護について学ぶ機会が少ない。職員が研修に行き勉強しているが機会があれば事業所でも勉強会を開き理解を深めて欲しい。成年後見人制度の研修には参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者・家族には十分な説明を行い、納得した上で契約して頂いている。重度化や看取りについての対応方針、医療機関との連携、加算部分についても説明を行い同意を得るようにしている。又、市町村とも連絡を取り様々な問題が発生しても即対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の訪問時、何でも言って頂く雰囲気作りと利用者や家族の意見・要望を管理者が聞いて運営に反映させています。面会時など各部屋に連絡帳が有り意見等記載してもらっており問題等はその都度ミーティングで話し合い反映させています。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングや朝礼で意見をお互い出せるよう心がけ、出た意見はケアだけでなく運営に関する事も聞きいれており月一回のミーティングで意見・提案を述べる機会もある。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者も介護や食事作りなど職員とともにいい、勤務状況も良く把握している。資格取得に向けて支援を行い、取得後は本人と話し合いながら職場で活かせるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修においては全ての職員が受講できるよう勤務体制の配慮をしている。内部研修についても同様に講師への配慮、継続できる環境作りをしている。新人職員にはマンツーマンで総合的な指導が出来るようにしている。又、研修報告もミーティングで発表し共有化に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内に連絡協議会が有りスタッフ研修の場を設け質の向上に取り組んでいる。又、地域の同業者との交流の機会を増やすべく相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する前に必ず本人と面談し、話しを聞き不安や要望を聞いている。又、出来る限り本人も含め施設見学をしてもらう様努めている。事前面談で生活状態を把握するようにして信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見に耳を傾け、家族が求めていることを理解し要望に対して事業所の出来ることは最大限活かせる様に話し合いをしている。家族の苦労や今までの状況を聞いて、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始時、事業所として可能なサービス提供の内容について対応している。利用者の抱えている問題・不安等を理解し、どの方法が一番良いのか等地域包括センターや地域のマネジャーと連携しながら良い方向へ持っていく努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人という立場でなく家族の一員としてお互い理解し、支えあえる様に日常生活をしている。出来ることはして貰い洗濯物・おしぼり作り等して貰い得意分野で力を発揮して貰う。人生の先輩であるという考えを共有しており教えて貰うことも多い。職員が利用者から、優しい言葉や励ましをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしや情報を共有している。又、遠方の家族にも手紙や電話で報告し、関係が途切れないようにしている。本人と家族の潤滑油になろうと心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月命日の墓参りを続けている利用者がある。又、入所前のかかりつけ医に入所後も安心して通える様各々の生活習慣を尊重している。外泊や家族からの電話も居室で受けられ、知人への面会の呼びかけ・友人馴染みの知人の家へ遊びに行かれる方もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で寄り添い話す場所やお祭りや食事の時は職員も一緒に会話をして関係が円滑に行くようにしている。毎日、食堂で歌をうたったりゲームをしたり職員も一緒に参加して楽しく過ごす時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も行事へ招待したり、家族への年賀状や暑中見舞いにて近況を伺うようにしている。他の事業所に移られても情報交換を行い、又、家族からの相談にも乗っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、利用者との会話の中で思いや暮らしの希望の把握に努め、本人が納得される説明を行う事で安心され、意志疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。言葉や表情などから真意をそれとなく確認出来るよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ本人の生活暦やこれまでの暮らし方、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	先入観で利用者の出来る事、出来ない事を決め付けてしまわず、出来る力、分かる力を本人の生活や行動、動作などから全体像をとらえる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 日々の様子やケアの気付きなど朝の申し送りやミーティングでその都度行い、計画の見直しに活かしている。又、個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体的状況、日々の暮らしの様子、言葉、エピソード等を記録している。	ミーティング等で本人がより良く暮せるように話し合い家族にも意見を聞き、現状に合った介護計画を作成している。職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気付きなど朝の申し送りやミーティングでその都度行い計画の見直しに活かしている。又、個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況、日々の暮らしの様子、言葉、エピソード等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて通院等の支援、面会時は自室と一緒に食事のサービスの提供も有りその場の状況に応じて臨機応変に対応している。ショートステイのサービスもできるようにしてある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられる様に消防関係者や保護司、民生委員と意見交換する場を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診があるが本人や家族の希望により職員が代行している。受診は希望に応じて掛かり付け医としている。又、訪問診療に来てもらえるケースもあり医療機関と医師に協力して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。早期発見に努め気付いた時は、直ちに看護職員に報告し医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には1～2日毎に職員が見舞うようにして状態を把握、入院によりダメージが大きくなるよう医師と話をする機会を持ち、早期の退院に向けてアプローチするなどしている。本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期対応の意志確認書を作成、事業所で対応できるケアについて説明し、本人や家族の意向を十分把握している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアル作成を行っているが各症状の対処方向で不十分な処があるが専門職（看護師）のフォローアップが有り不安は少ない。救急救命法の学習・訓練及び夜間時の緊急時の対応についても周知徹底を図っている。又、蘇生術の研修も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所だけでなく近隣の方々と共に火災訓練（初期消火）等を行っている。以前水害に遭い、それ以降年に1～2回利用者と共に避難訓練を実施している。非常用の食料品についての準備も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重し、最低限のプライバシーの保護を行っている。利用者を傷つけるような声かけをしないよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた対応の仕方、行きたい所・食べたい物など本人に決定していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の状態に合わせて個別性の支援、本人の希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝の更衣など本人に意志決定してもらい出来ない人へは職員と一緒に考え本人の気持ちに添った支援を行っている。希望があれば理・美容室へ出かける支援をしている。それ以外の方には職員（免許取得者）が調髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立（自家栽培の野菜や卵など）を工夫し、下ごしらえの手伝いをしてもらうなど昼食は職員も一緒に食べるなど楽しい雰囲気作りもしている。又、食べにくい物は、きざみ食やミキサー食にするなどの工夫もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	各々の食事量・飲料水量は常に把握しており 栄養のバランスを考えて献立を立ており栄養 士のアドバイスも受けている。又、アレル ギー等についても把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所で口腔ケアを行ってもらい、一 人で出来ない人への声かけ、介助、必要に応 じて口腔体操も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	身体機能に応じてトイレでの排泄ができるよ う支援を行うとともに排泄のチェックをして いる。オムツやパッドは本人に合わせて検討 している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方へは牛乳やヨーグルト・ヤクル ト（毎朝）等の補給と歩行運動・体操なども 日課としている。食事内容も繊維質の多いも のを取り入れている。下剤は本人の体調に合 わせて使用し、腹部マッサージ・水分補給を 行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時の転倒事故にはとくに気をつけて、安心して楽しみの入浴となるよう一人ひとりの状態に合わせて支援している。入浴出来ない場合の対応として清拭・足浴・手浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動（面会・通院・入浴以外）後の表情や体調を見ながら休憩を取れるようにしている。睡眠状況を把握し日中の活動の妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルは作成され職員は内容を把握できようとしている。薬は必ず一人ひとりに手渡し又は介助して服用できているか確認している。変更時は必ず申し送りをして誤薬がないよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるよう洗濯物やおしぼり作り、野菜の下ごしらえ等していただいて感謝の気持ちを伝えている。又、年賀状・暑中見舞い・地域行事に出品する作品作りなど日々の生活の気分転換等の支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に添って体調を考慮しながら戸外に出ることを積極的に支援している。又、家族と一緒に外出（墓参り等）や外泊なども本人の希望でされており、園では季節に合わせてソーメン流しやぶどう狩りに出かけるなどの支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の安心や満足に向けて家族毎に要望は違うが小額の金銭は持って頂けるよう支援している。又、家族よりお金を預かり事業所が管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者が年賀状や暑中見舞いなどを家族へ出す為の支援や希望に応じて電話の利用が出来るようにしてある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅から持ってきたテレビやタンス・仏壇等を自室に置いてある。又、自宅で使用していた物や写真・人形・花等慣れ親しんだ物が置かれており光や音など本人が過ごしやすい雰囲気作りをしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂兼ホールにはソファを置いて気の合った人同士が話しをしたりして、くつろげる居場所作りがしてあり玄関・ホール・廊下等花や絵画や利用者の作品・写真等を飾り居心地の良い空間を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や花は勿論のこと自分で作った飾り物等含めて本人が心地よく過ごせるよう工夫してある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・廊下やトイレなど手摺りを利用し歩いている。一人ひとりの出来ることや分かることを見極め、名札や居室の入口に花を掛けたりして分かり易くし自立した生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない